

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

| | | | | | | | | | |
|----------------|--|-------------|----|---------|---|------|--------------------|-----|----|
| 授業科目名 科目コード | 世界経済論 (Global Economy) 393135-14120 | | | | | 担当教員 | 広田 秀樹 (ヒロタ ヒデキ) | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 必修・ 選択区分 | 選択 | 単位 数 | 2 | 配当年次 | 3年次 | 開講期 | 後期 |
| 科目特性 | 知識定着・確認型 AL | | | | | | | | |

| |
|---|
| ① 授業のねらい・概要 |
| 世界経済の本質を見抜く思考力を身に付けるため、世界経済の多様な側面を学習する。第1に貿易収支、対内直接投資残高等の世界経済を分析するツールを学習し、第2に世界の各エリアを、グローバル化のメリット吸収という視点を中心に学習し、第3に世界経済の大局的動向や秩序について、国際政治の要素も入れて学習する。授業内容は上級レベルである。 |
| ② ディプロマ・ポリシーとの関連 |
| 専門的知識・技能を活用する能力を育成する授業。 |
| ③ 授業の進め方・指示事項 |
| 広範な専門知識、情報を紹介しながらも、独自で深く考え本質を見抜く思考力を育成するため、頻繁に質問し意見を求め、討論を促すような授業を行う。活発な発言をすること。 |
| ④ 関連科目・履修しておくべき科目 |
| マクロ経済学・ミクロ経済学 |
| ⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安 |
| (i) 世界経済の全体像が理解できる。 (ii) 世界経済を変化させるファクターの詳細が理解できる。 (iii) 世界経済の未来について考え、独自の思考から多様な提案ができる。 |
| ⑥ テキスト（教科書） |
| 学習資料を配布する。 |
| ⑦ 参考図書・指定図書 |
| 西川潤（2014）『新・世界経済入門』岩波書店 |

| ⑧ ルーブリック | | | | | |
|-------------------|--|----------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---|
| 評価項目 | 評価基準 | | | | |
| | S | A | B | C | D |
| | 到達目標を越えたレベルを達成している | 到達目標を達成している | 到達目標達成にはやや努力を要する | 到達目標達成には努力を要する | 到達目標達成には相当の努力を要する |
| (i) 世界経済の大局把握 | 世界経済の大局把握に関して資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している。 | 世界経済の大局把握に関して資料等に頼らず説明できる。 | 世界経済の大局把握に関して資料等を参照しながら説明できる。 | 世界経済の大局把握に関して資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。 | 世界経済の大局把握に関して資料等を参照しても教員等の支援を得ても説明できない。 |
| (ii) 世界経済の変化要因の理解 | 世界経済の変化要因に関して資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している。 | 世界経済の変化要因に関して資料等に頼らず説明できる。 | 世界経済の変化要因に関して資料等を参照しながら説明できる。 | 世界経済の変化要因に関して資料等を参照しかつ教員等の支援を得て説明できる。 | 世界経済の変化要因に関して資料等を参照しても教員等の支援を得ても説明できない。 |
| (iii) 世界経済への提案 | 現状を理解した上で世界経済への効果的かつ独創的な提案ができる。 | 現状を理解した上で世界経済への適切な提案ができる。 | 現状を理解した上で世界経済への提案が不十分ながらできる。 | 現状の理解が不十分ながら世界経済への提案が辛うじてできる。 | 現状の理解が不十分で世界経済の提案ができない。 |

| ⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法 | | | | | | | | |
|------------------------------------|--------------------------------|------|----|------|-------|-----------|-----|------|
| 学習到達目標（評価項目） | 試験 | 小テスト | 課題 | レポート | 発表・実技 | 授業への参加・意欲 | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 45% | | | 30% | | 25% | | 100% |
| (i) 世界経済の大局把握 | 20% | | | 10% | | 10% | | 40% |
| (ii) 世界経済の変化要因の理解 | 20% | | | 10% | | 10% | | 40% |
| (iii) 世界経済への提案 | 5% | | | 10% | | 5% | | 20% |
| フィードバックの方法 | レポートについてはコメントを行い討論のベースとして紹介する。 | | | | | | | |

| ⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等） |
|---|
| 世界経済の現象、現状を冷静に把握しながら、それらの奥にある本質を見抜き、独自の考えを提示できる強い思考力を、身に付けてもらうような授業を志向する。 |

| ⑪ 授業計画と学習課題 | | | |
|-------------|--------------------------------|-----------------------------------|-----|
| 回数 | 授業の内容 | 授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物） | |
| 1 | イントロダクション・グローバル資本主義とグローバリゼーション | グローバル資本主義とグローバリゼーションの関係に関するレポート作成 | 90分 |
| 2 | 世界経済を分析する基本ツールⅠ | 分析ツールの応用問題 | 90分 |
| 3 | 世界経済を分析する基本ツールⅡ | 世界各地への分析ツールの応用 | 90分 |
| 4 | 世界経済を分析する基本ツールⅢ | 分析ツールのメリットと限界に関するレポート | 90分 |
| 5 | グローバリゼーションのメリットと経済発展 | グローバリゼーションとナショナリズムに関するレポート | 90分 |
| 6 | 投資の世界的スケールでの展開 | 国際投資の成功例と失敗例に関するレポート | 90分 |
| 7 | 人材の世界的スケールでの移動 | グローバル人材に関するレポート | 90分 |
| 8 | アメリカ経済の分析 | アメリカ経済への提案に関するレポート | 90分 |
| 9 | シンガポール経済の分析 | シンガポール経済への提案に関するレポート | 90分 |
| 10 | 中国経済の分析 | 中国経済への提案に関するレポート | 90分 |
| 11 | オランダ経済の分析 | オランダ経済への提案に関するレポート | 90分 |
| 12 | スウェーデン経済の分析 | スウェーデン経済への提案に関するレポート | 90分 |
| 13 | フィンランド経済の分析 | フィンランド経済への提案に関するレポート | 90分 |
| 14 | UAE 経済の分析 | UAE 経済への提案に関するレポート | 90分 |
| 15 | まとめ | 人類に幸福をもたらす世界経済システム構築に関する提案レポート | 90分 |

| ⑫ アクティブラーニングについて | |
|--|--|
| 知識定着・確認型 AL を採用する。講義内容をベースにして、独自に調査、考察しレポートを作成する | |

なかで本質を見抜き、独自に提案できる思考力を伸ばす。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性